

SaaS利用を快適にする ネットワークの高速化・可視化ソリューション

SaaSアプリケーションへの安全なアクセスを確保しながら
パフォーマンスの向上、ストレスのないSaaS利用を実現します。

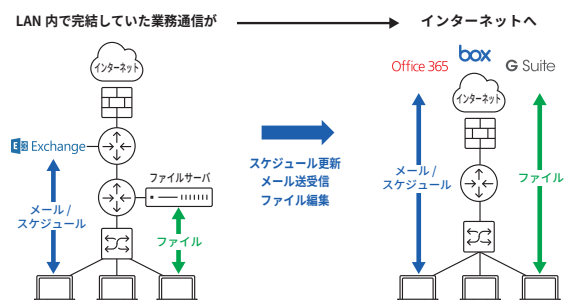
トレンド

企業のDX化～SaaS利用の一般化～

- 企業におけるSaaSアプリケーション利用
例) Microsoft 365 (Office 365)、G Suite、Box など
- 企業の業務アプリケーションをパブリッククラウド上で利用
- PC、スマートフォンなどのソフトウェアアップデートによる
ダウンロードトラフィックの増加
例) Windows UpdateやiOSのアップデート

*SaaS/Software as a Service = クラウドで提供されているソフトウェアサービス

クラウドサービスの通信はすべてインターネットへ



課題

よくあるSaaS利用の課題

課題 1

SaaS 利用時や Windows Update
時に社内からのインターネット
アクセスが遅くなる
(プロキシなどが高負荷)

課題 2

複数拠点での SaaS の利用状況が
把握できず改善点がわからない。
情報漏洩も把握できない。
SaaS 活用方法の判断ができない。

課題 3

拠点からファイルアップロード、
ビデオ会議などのSaaSを
利用すると遅延が発生する
(WANが高負荷)

課題 4

個人アカウントを使って
機密情報を社内から
社外クラウドへ持ち出す

SaaS 利用によりネットワークアクセスが遅延したり機密情報が漏洩すると
企業活動に大きな影響がでる！

解決

A10 ネットワークスのベストプラクティス

課題 1 の解決

社内ネットワークの最適化、
プロキシの負荷軽減

課題 2 の解決

トラフィックを可視化して
シャドーIT対策・SaaS利用方針を策定

課題 3 の解決

拠点からWANを経由せず
直接SaaSへ接続、複数拠点を一元管理

課題 4 の解決

個人アカウントの
利用制限

クラウドプロキシ
データセンターに
Thunder CFW 導入

SaaS トラフィックの可視化
Thunder へ App Firewall 導入
本社に Cloud Proxy App を導入

ローカルブレイクアウト
各拠点に Thunder を導入
中小規模拠点へは Thunder 840 CPE を導入

Thunder の集中管理
Harmony Controller を導入

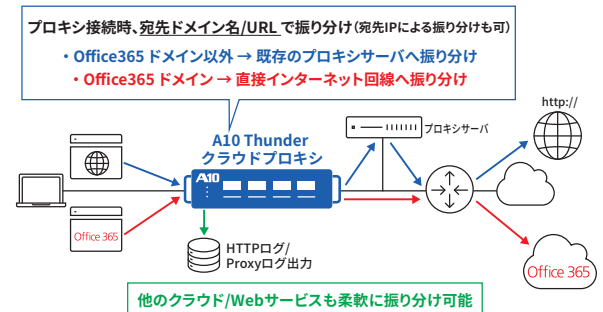
クラウドプロキシソリューションの特徴

Thunder CFW をデータセンターへ導入することで利用できる3つの機能

機能 1

PC のプロキシ接続先を A10 Thunder に変更するだけで、宛先ドメイン名に応じて通信を振り分け、プロキシをオフロード

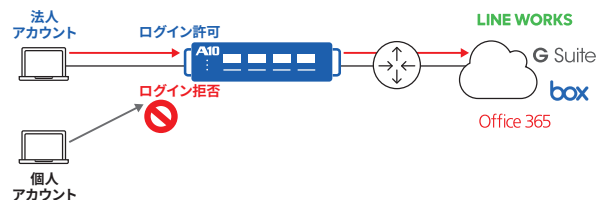
- ・ エントリー機器でもハイエンドプロキシの 20 倍以上のセッションを処理可能
- ・ IP アドレスより精度が高い宛先ドメイン名による振り分け
- ・ 振り分けをする、しないの設定をあらゆるクラウドサービスで柔軟に設定可能
- ・ Office 365 などの多数のクラウドサービスの URL をリスト化
Microsoft 365 (Office365), Google G suite, Box, Windows Update, AWS, Azure, Google Cloud ..
- ・ Office 365 の URL リストを自動更新できるソリューションを用意



機能 2

シャドー IT 対策 - テナント制限 (個人アカウントの利用制限)

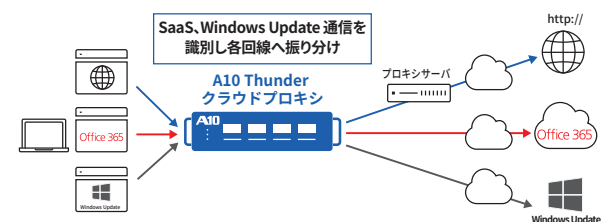
- ・ SSL/TLS 可視化機能により個人アカウントによるログインを制御
- ・ Office 365/G Suiteなどで指定した法人アカウントのみ社内からのログインを許可
- ・ 社内からの情報漏洩を防止
- ・ Office 365、G Suiteだけでなく、Box、LINE WORKSでも個人アカウント利用の制御が可能



機能 3

トラフィックをアプリケーション単位で別回線に振り分け

- ・ SaaSはプロキシを経由せず直接SaaS専用回線へ振り分け
- ・ SaaS以外は既存プロキシサーバへ振り分け、既存のインターネット接続回線へ
- ・ Windows Update通信など、ソフトウェアアップデートのトラフィックも識別し、専用回線へ振り分けすることが可能

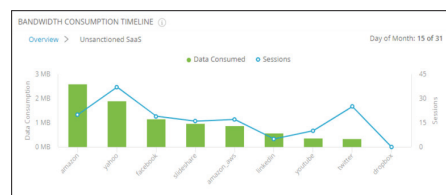


Cloud Proxy App の特徴



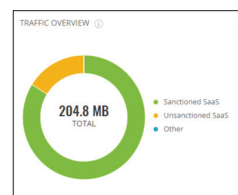
[イメージ] ダッシュボード

クラウド/オンプレミス両方のOffice 365トラフィックを同時に可視化



[イメージ]

各アプリケーションの単位時間ごとの接続数や利用帯域を表示



[イメージ]

許可/非許可のアプリケーションのトラフィック比率を表示

アプリケーションの可視化

- ・ 各拠点のクラウドプロキシを通過するアプリケーショントラフィックを可視化
- ・ SaaSを中心とした3,200種類を超えるアプリケーションの利用状況を可視化

シャドー IT 対策

- ・ 社内での利用が許可/非許可のアプリケーションのトラフィック量を可視化することでキャパシティ管理やセキュリティ対策への利用が可能

Office 365 利用状況の把握

- ・ 社内外の Office 365 ユーザのログイン情報や利用状況を可視化
- ・ SharePoint/OneDrive のファイル共有状況を可視化
- ・ 監査ログに基づくユーザのアクティビティやファイル共有状況をアプリケーションレベルで可視化

ローカルブレイクアウトソリューションの特徴

Thunder 840 CPEなどを拠点に配置し、WANをオフロードするトラフィック制御とセキュリティ対策を同時に実現

クラウド通信の識別と、トラフィック振り分け

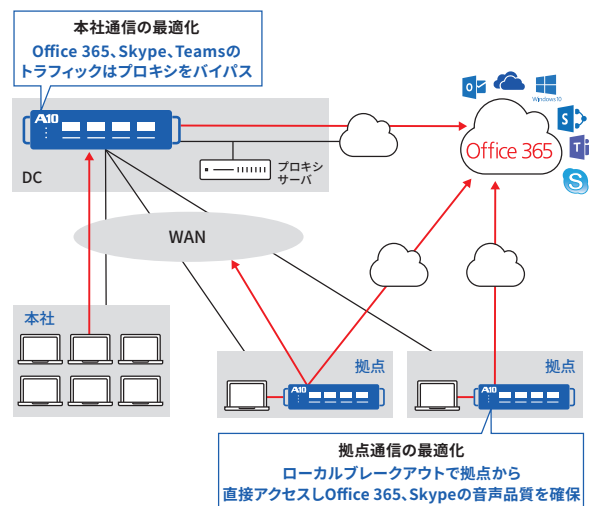
クラウドプロキシ機能によりクラウドアプリケーションやサービスのみ拠点から直接インターネットへ接続しWANの負荷を軽減。それ以外のトラフィックはこれまで通りWANを経由してデータセンターからインターネットへ振り分け。

IPsec VPNで、拠点間や拠点とデータセンターを接続

- ・拠点間でのIPsec VPN接続の利用
- ・インターネット上にプライベートな拠点間接続を構成

その他の機能

- ・L4ファイアウォール機能
- ・アプリケーション可視化とL7ファイアウォール機能
- ・クラウドサービス向けのアカウント利用制限
- ・インターネット回線負荷分散
- ・URLフィルタリング



クラウドプロキシはあらゆるSaaSに対応

box G Suite salesforce 他多数

ローカルブレイクアウト専用モデルの展開

中小規模拠点	大規模拠点
Thunder 840 CPE	Thunder 840/940
0.5 Gbps	5 Gbps
	Thunder 1040
	15 Gbps
	Thunder 3040
	30 Gbps

Harmony Controllerの特徴

Harmony Controllerにより複数拠点のThunderシリーズを一元管理

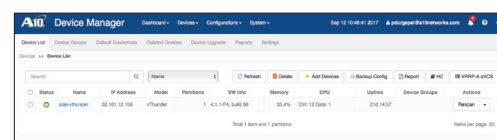


A10 Harmony Controllerは、Thunderシリーズの設定を一元管理できるソリューションです。

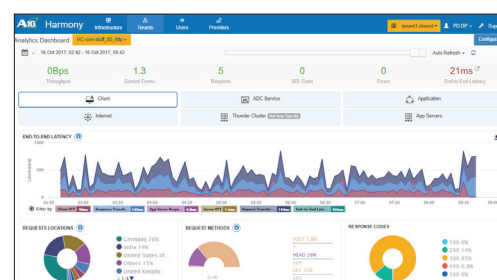
データセンター内のThunder CFWや、拠点に分散した複数のThunder 840 CPEなどを単一の管理画面から統合的に管理・運用することができます。これにより、複数拠点に多くのThunderシリーズを展開した場合でも、個別に設定していく運用の負荷が軽減され、運用コストを削減することができます。

複数のThunderシリーズをグループ化することにより、同じ操作を一度にすべての筐体へ反映させたり、アップグレードや死活監視などにも利用することができます。

Harmony Controllerは、サービスとして利用できるSaaSモデル、ソフトウェアでの提供、及び専用のアプライアンスモデルなどがあります。



[イメージ] Harmony Controllerのデバイス管理画面



[イメージ] Harmony Controllerのダッシュボード

スペック一覧

Cloud Proxy App

仮想アプライアンス	
ハイパーバイザー	VMware ESXi 5.5 および 6.5
ハードウェア要件	- Intel x 86-based CPU (最小 16コア) 32 GB RAM 220 GB の空き容量

Harmony controller ハードウェアアプライアンスモデル

モデル	HC8000	HC2000
ラックサイズ	2U	1U
CPU	Intel Xeon 20 コア (40 HT)	Intel Communications Processor SoC 16 コア (16 HT)
メモリー (RAM)	128 GB 4 x 3.5"	64 GB 1 x 3.5"
ストレージ: リムーバブルディスクドライブ	4 x 6 TB HDD ブランクベイなし	6 TB HDD ブランクベイなし
電源	デュアル 500W RPS 80 PLUS 「Silver」	デュアル 750W RPS (DCオプション) 80 PLUS 「Platinum」

クラウドプロキシ ハードウェア アプライアンスモデル

パフォーマンス	Thunder 840 CPE	Thunder 840 CFW	Thunder 940 CFW	Thunder 1040 CFW	Thunder 3040 CFW
アプリケーションスループット (レイヤー7)	0.5 Gbps	5 Gbps	7.5 Gbps	20 Gbps	30 Gbps
レイヤー7 CPS	5,000	5 万	7 万 5,000	18 万	28 万
レイヤー4 同時セッション数	400 万	1,600 万	1,600 万	3,200 万	6,400 万

セキュアWebゲートウェイのパフォーマンス ¹					
SSLスループット (2K鍵)	—	0.5 Gbps	0.5 Gbps	1.5 Gbps	2.5 Gbps
SSL CPS	—	RSA (1K) : 500 RSA (2K) : 300	RSA: 500 ECDHE: 300	RSA : 4,000 ECDHE : 3,000	RSA : 8,000 ECDHE : 4,500

ネットワークインターフェイス					
1 GEカッパー	5	5	5	5	6
1 GEファイバー (SFP)	0	0	0	0	2
1/10 GEファイバー (SFP +)	0	2	4 ⁵	4 ⁵	4 ⁶
管理ポート	イーサネット管理ポート x 1、RJ-45コンソールポート x 1				

ハードウェア仕様					
プロセッサー	Intel Communications Processor	Intel Communications Processor	Intel Communications Processor	Intel Communications Processor	Intel Xeon 4-core
メモリー (ECC RAM)	8 GB	8 GB	8 GB	16 GB ²	16 GB
ストレージ	SSD	SSD	SSD	SSD	SSD
ハードウェアアクセラレーション	ソフトウェア	ソフトウェア	ソフトウェア	ソフトウェア	ソフトウェア
SSLセキュリティプロセッサー (Sモデル)	—	—	—	○	○
外形寸法	44.45 mm (高さ) x 431.8 mm (幅) x 304.8 mm (奥行)	44.45 mm (高さ) x 431.8 mm (幅) x 304.8 mm (奥行)	44.45 mm (高さ) x 444.5 mm (幅) x 438.15 mm (奥行)	44.45 mm (高さ) x 444.5 mm (幅) x 438.15 mm (奥行)	44.45 mm (高さ) x 444.5 mm (幅) x 443.2 mm (奥行)
ラックユニット (マウント可能)	1U	1U	1U	1U	1U
重量	3.99 kg	3.99 kg	6.35 Kg / 7.26 Kg (冗長電源搭載時)	6.80 Kg / 7.71 Kg (冗長電源搭載時)	9.34 kg
電源 (DCオプションあり)	シングル 150W (ACのみ) AC 100 ~ 240 VAC、50~60Hz	シングル 150W (ACのみ)	シングル 750W ⁴ AC 100 ~ 240 VAC、50~60Hz、80 PLUS 「Platinum」 認定の電力変換効率	シングル 750W ⁴	デュアル 600W RPS
消費電力 (通常/最大) ³	57W / 75W	57W / 75W	60W / 80W	80W / 110W	180W / 240W
発熱量 (BTU/h) (通常/最大) ³	195 / 256	195 / 256	205 / 273	273 / 376	615 / 819
冷却ファン	シングル固定ファン	シングル固定ファン	ホットスワップファン	ホットスワップファン	ホットスワップファン
動作環境	温度: 0~40 °C 湿度: 5~95 % (結露なきこと)				
規格準拠	FCC Class A、UL、CE、 TUV、CB、VCCI、CCC、 BSMI、RCM RoHS	FCC Class A、UL、CE、 TUV、CB、VCCI、CCC、 BSMI、RCM RoHS	FCC Class A、UL、CE、GS、 CB、VCCI、CCC、BSMI ⁵ 、 RCM ⁶ RoHS	FCC Class A、UL、CE、GS、 CB、VCCI、CCC、BSMI ⁵ 、 RCM ⁶ RoHS	FCC Class A、UL、CE、CB、 GS ⁵ 、VC CI、CCC、KCC、 BSMI、RCM RoHS

仕様およびパフォーマンスの数値は予告なしに変更されることがあり、構成および環境条件によって異なります。
*1 アプライアンス1台構成のSSL導入、SSLアクセラレーションASICの最大搭載時のテスト結果。RSAの場合は暗号スイートTLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHAがRSA 2048bit鍵で使用され、PFSの場合はTLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256がP-256およびRSA 2048bit鍵で使用されます。| *2 SSLアクセラレーションASICの最大搭載時。| *3 標準構成時。SSLアクセラレーションASIC搭載時は異なります。| *4 RPSオプションあり | *5 1000Base-T SFPは未サポートです。| *6 1000Base-SX SFP、1000Base-LX SFPは未サポートです。

Learn More
About A10 Networks

お問い合わせ
a10networks.co.jp/contact

A10ネットワークス株式会社

www.a10networks.co.jp
a10networks.co.jp/contact

©2020 A10 Networks, Inc. All rights reserved. A10 ロゴ、A10 Networksは米国およびその他の各国におけるA10 Networks, Inc. の商標または登録商標です。その他上記の全ての商品およびサービスの名称はそれら各社の商標です。A10 Networksは本書の誤りに関して責任を負いません。A10 Networksは、予告なく本書を変更、修正、譲渡、および改訂する権利を留保します。製品の仕様や機能は、変更する場合がございますので、ご注意ください。商標については詳しくはホームページをご覧ください。www.a10networks.com/a10-trademarks

Part Number: A10-SB-19201-JA-02 Oct 2020